

修学旅行生向け観光マップ

2年6組 34番 望月琉斗

アブストラクト

修学旅行生向け観光マップを地元高校生が作る。
(マップに載せるお店は地元資本のお店)

はじめに

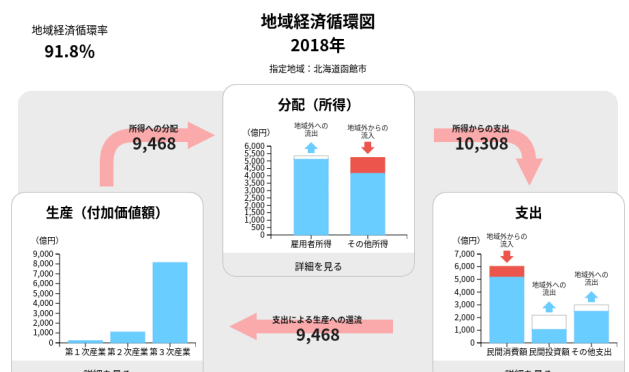
私たちは、地方創生の観点から、個人(地域)のお店にお客を呼び込むことで、域内経済循環が促進できるのではないかと考えた。域内経済循環とは地域にある資源を活用して、地域で消費するものを地域で生産する「地消地産」と消費者の消費行動を連動させ、地域外から獲得した資金を地域内で循環させることで、地域に雇用と所得を持続的に生み出す自立的な経済構造を構築するものである。

そこで、忖度のない観光・食べ歩きマップを作ることで、地元資本のお店の支援ができること、そして修学旅行生には函館の魅力を知ってもらい、リピーターになってもらうことで、函館の人口問題を小さくできるのではないかと考え作成を試みた。

1 文献調査、社会調査

函館には年間46万8千人(2019年度)の外国人が訪れる。また、函館のホテルは近年外資系企業に買収され、バスも外国の企業と提携した日本語以外のラッピングをされているなど、外資系に買収されている会社も増えてきた。外国人は外国系企業にお金を落とし、来函観光客数ほどのお金が地域に落とされていないと考える。

一方、外資系企業の困い込みに関するリサーチは、実態が掴めないところもあり、旅行代理店などにヒアリング調査を行っている。



2 結果

来函観光客数ほどのお金が地域に落とされていないと考えたことから、日本系のホテルに宿泊し、自主研修等を行う修学旅行生に対し、地元企業の利活用を促すマップを作りたい。そしてそれを利用した修学旅行生に少しでも多くのお金を地元企業に落としても

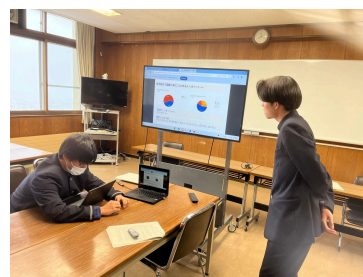
らい、函館のイメージ向上と、地域経済の活性化の両方を目指したいと考えた。

そこで、旅行ガイドに掲載されていない西部地区の飲食店や、映えスポットなどについて、地元のクラウドファンディングで資金を集めて実際に観光マップを作り、観光案内所や旅行代理店等で配布できたら良いと思っている。

3 現在までの活動

まず、観光マップ作成のために数十店の地元資本の店舗に取材を行い、お店の特徴などの調査活動を行っている。現在も活動は継続中である。次に、観光マップ（A3表裏）作成のための見積り実施。作成の費用がわかったのでクラウドファンディングを検討したい。

また、様々な発表の機会をもらい、自分たちの活動の助言をいただきながら、完成に向けて活動している。



4 考察

私たちは自分たちの修学旅行の経験から、修学旅行生は学校に渡されたガイドブックやマップなど少ない選択肢から昼食やデザートを選んでいるのではないかと仮説を立てた。また外資系企業の困り込みのせいで、オーバーツーリズムが起きている割に函館にお金が回らない問題が起きつつあるので、地域の企業を応援したいと思っている。

最終的な仮説は個人（地域）のお店にお客を呼び込むことで、域内経済循環が促進できるのではないだろうか、というものである。忖度のない地元資本のお店だけを扱った観光・食べ歩きマップを作ること、地元資本のお店を支援したいと考えている。

また、修学旅行生には函館の魅力を知ってもらい、リピーターになってもらえるような体験をこのマップの作成で間接的に支援したい。そうすることで函館の経済が活性化すると考えるものである。

4 まとめと結論

この地図を作ることで函館に興味を持ってくれる他地域の学生が増え、函館の魅力を高校生の声で伝えることができると改めて考えた。

5 課題

Googleなどのマップを活用して紙のマップを作成するのは著作権の侵害にあたることを知り、学生のみでの地図作成は難しいこともわかった。今後は専門家や企業等と連携しながら実現に向けて頑張っていきたい。

また、相談させていただいているはこだて西部まちづくRe-designさんなどとも連携しながら、クラウドファンディングでの資金調達を行い、1万枚を作成したいと考える。方法や進め方など手探りの部分もあるため、色々な方からのアドバイスも伺いたいと考える。

6 謝辞

この探究を進めるにあたり、印刷会社の小田様、取材をさせていただいた西部地区の飲食店の皆様にはご助言、ご協力をいただきありがとうございました。また、共同探究として一緒に携わってくれた同級生二名と長澤先生、ご協力ありがとうございました。

7 参考文献

1) RESAS地域経済循環図より

<https://resas.go.jp/regioncycle/#/map/1/01202/2/2018/->

